

WORLD REPORT

FOR INTERNATIONAL AFFAIRS

編集・発行人 中丸薫
 発行所 米国財団法人国際問題研究所
 〒113-0021
 東京都文京区本駒込1-27-10-403
 Tel: 03-5976-5772
 Fax: 03-5940-6481
 Mail: info@nakamarukaoru.com
 URL: www.nakamarukaoru.com

※無断で転載することを禁じます。

今月のことば



「信念と情熱を持って立ち上がる」

中丸 薫

国際情勢

新時代の米ロ対立

オリンピックの 開会式をねらった武力侵攻

4年に一度の「平和の祭典」、夏季オリンピックが北京で幕開けした8月8日、ロシアがグルジアに侵攻した。前日(8月7日)、グルジア軍が、自国領土でありながら中央政府に敵対してきた南オセチア州の州都ツヒンバリに侵攻したのに対抗して、ロシアはただちに南オセチアに増援部隊を派遣し、グルジア軍を退散させた。紛争地である南オセチアを越えてグルジア中部にまで侵攻した。小国グルジアの軍隊がロシア軍と戦争して勝てるはずがない。グルジアのサアカシユビリ大統領(フスコミ)の発言表記はサーカシビリ大統領は、8月11日、フランスの調停に応じて、停戦文書に署名した。ロシアはこの段階では停戦を拒否し、グルジアの首都トビリシ近郊にまで攻め入った。

ようやく、8月12日になって、ロシアとグルジアは和平案に合意した。グルジアは、この日、旧ソ連の名残りのある独立国家共同体(CIS)からの脱退を宣言した。

ロシアの権力者プーチン首相は、8月8日の北京オリンピック開会式に出席し、自国選手団に応援の手を振っていた。テレビで中継されたから世界中の人々がプーチンの姿を画面で見た。しかし、その裏で、グルジア政府の侵攻を待ちかまえていたかのよう、ロシア軍に対し反撃の指令を北京から出した。メドベージェフ・ロシア大統領はその日、夏季休暇中で、船でボルガ川を下りていたという。

グルジアのサアカシユビリ大統領は、なぜ勝ち目のない武力衝突に打っ

て出たのだろうか。

米ロの代理紛争

グルジアは、カスピ海と黒海にはさまれた地域、カフカス山脈(コーカサス山脈)の南に位置し、黒海に面する人口約440万人の共和国。首都はトビリシ。国の北側はロシアと国境を接し、南側は、トルコ、アルメニア、アゼルバイジャンと接している。1991年に独立し、旧ソ連外相だったシェワルナゼ氏が大統領を務めたが、2003年の「バラ革命」で辞任。04年の大統領選で親米派のサアカシユビリ氏が当選し、ロシアとの関係が悪化した。グルジア国内にあつて親ロシアの、アブハジア自治共和国と南オセチア自治州で分離独立を目指す動きが先鋭化。これを後押しするロシアとの対立も激化した。

旧ソ連時代の影響力を行使するロシアと、それを阻止して親米政権を樹立させたアメリカが激しく対立し、いつか軍事衝突が起こると言われている。背景にはエネルギーをめぐる覇権争いがある。

カスピ海周辺には、ロシアとイラン、そして旧ソ連圏だったアゼルバイジャン、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、グルジア、タジキスタン、トルクメニスタンといった国々がひしめいている。これら地域には、世界第2位あるいは第3位と推測される石油が眠り、天然ガスも豊富に存在する。しかし、カスピ海は内海であるため、採掘した石油や天然ガスは、鉄道やパイプラインによつて多くの国や地域を経由して輸送しなければならない。しかも、これらの国や地域はバルカン半島同様「火薬庫」と称され、政情不安定な国が多い。そこで、米ロはカスピ海周辺の国を自国に取り込むべく、民族宗教対立を利用して各国に干渉し、90年代から熾烈な争いを繰り広げてきた。旧ソ連が崩壊した1991年以後、

アメリカは旧ソ連の勢力圏へ大統領自ら訪問するなど、これらの地域の「民主化」に腐心してきた。グルジアもそのひとつである。グルジアは2003年、当時のシェワルナゼ大統領が政権を追われ、サアカシユビリ現大統領が政権の座についた。サアカシユビリ大統領は、米コロンビア大学で法学位を、ジョージ・ワシントン大学で博士号を取得し、NYの法律事務所働いていたときにグルジア政界入りを誘われた。いわばアメリカのためにグルジア大統領に据えられたような人物である。彼は「バラ革命」によつて大統領になったが、その資金を提供したのは、ジョージ・ソロスのNGO「オープン・サティ・インスティテュート」であった。このNGOはグルジアのみならず、ウクライナやキルギスの「民主化運動」にも資金を提供し、前者を「オレンジ革命」(2004年)、後者を「チューリップ革命」(2005年)により政権交代に導いた。

ロシア勢力圏でのアメリカによる「民主化ドミノ」を、KGB出身のプーチンが黙って見過ごすはずもない。ロシアはグルジアの南オセチア自治州、アブハジア自治共和国に干渉し、サアカシユビリ政権に揺さぶりをかけたのである。それが今回のグルジア侵攻の伏線だった。

アメリカ大統領選挙と グルジア紛争

11月に行なわれるアメリカ大統領選挙の共和党民主党候補が正式に決まって選挙戦だけなわけである。アメリカの分析者の中には、グルジアの侵攻が8月7日になったのは、そのころ、民主党のオバマ候補に支持率で離されていた、共和党マケイン候補を挽回させるために、ブッシュ政権がグルジアのサアカシユビリを焚きつけて侵攻させたと推測する人がいる。

マケイン候補の主席外交顧問ランディ・シュリーネマンは、今年3月まで4年間にわたつて、グルジア政府から計90万ドルの金をもらい、アメリカ政界でグルジア政府のために盛んにロビー活動をしてきた人である。サアカシユビリ大統領は、グルジアのNATO加盟を実現することを公約のひとつに掲げて大統領になった(もうひとつの公約は、南オセチア、アブハジアの独立阻止)。シュリーネマンのロビー活動は、グルジアのNATO加盟を強力に後押しすることだった。

とは言え、今回の戦争によつて、グルジアのNATO加盟の可能性はほぼ消えたという見方が強い。もし加盟せたら、規約によつて、他の加盟国もグルジアの戦争に加担せざるをえなくなるからである。しかし、NATO諸国の中にも、ロシアと事をかまえたくない国は少なくないであろう。

ランディ・シュリーネマンは、ネオ・コンサーバティブのなかで最も知られた人物であり、ネオコンがイラク戦争を画策したのは、彼が「アメリカ新世紀計画」の主宰者の時だった。もちろん、サアカシユビリ大統領とは旧知の間柄である。2006年にはマケインと一緒グルジアを訪問したことも報道されている。

そのシュリーネマンが外交顧問を務めるマケイン候補は、ロシアに対してはなほだ強気に出ている。「ロシアをG8から除名すべきだ」と発言して、東西冷戦体制の復活か、と言われた。

グルジア軍の南オセチア侵攻は、アメリカが当然助けに来てくれるものと期待して、サアカシユビリが仕掛けたものとの見方が強い。しかし、土壇場でアメリカに見捨てられた。グルジアの政府や世論からは「アメリカに裏切られた」という怒りの声が上がったという。

そういう状況も含んでアメリカ大統領選が行なわれる、ということをは忘れるわけには行かない。

トピック

ガスOPECで
米に對抗するロシア

各国の政争に深く関わる一方、米ロはそれぞれにパイプラインの建設に総力をあげてきた。現在、カスピ海周辺の石油をヨーロッパへ運ぶパイプラインは、ロシアを経由するルートと、アゼルバイジャン・グルジア・トルコを経由するルートがある。後者は「BTCパイプライン」と呼ばれ、米英や日本、アゼルバイジャン、トルコなど6カ国10社が出資する多国籍コンソーシアムによって運営されている(BTCとは、アゼルバイジャンの「バクー(Baku)」、グルジアの「トビリシ(Tbilisi)」、トルコの「ジェイハン(Ceyhan)」各都市の頭文字をとったもの)。

パイプラインの建設にあたって、当初、欧米の石油会社は、「海までの距離が短く、建設費が抑えられる」との理由から、イランルートに強く希望していた。だが、米政府はロシアとイランの覇権拡大を阻止するために、あえて紛争地帯を通るBTCルートを選んだ。この時点で、アメリカは近い将来ロシアと全面衝突することを確信していたであろう。

パイプラインの建設により、アゼルバイジャン、グルジア、トルコが受けた経済的恩恵は計り知れない。それだけでなく、多国籍コンソーシアムの筆頭株主であるBP(ブリティッシュ・ペトロリアム)社から、医療、教育、福祉において多大な支援も受けている。こうした支援やNGO活動を通じて現地の状況を把握することは、反米勢力の動きを監視することにもつながる。アメリカがイギリスや日本の協力を得てわざ

わざ紛争地帯を通るパイプラインを建設し、親米圏を拡大したことは、政治的に非常に大きな意味を持つのである。

一方、ロシアでは今年5月、プーチンがエネルギー大手企業ガスプロムの会長をつとめていたメドベージェフに大統領を譲り、自らは首相になった。その際、副首相だったズボコフが、ガスプロムの新しい会長に就任した。メドベージェフもズボコフも、プーチンの腹心の部下である。ガスプロムは、石油と天然ガスの埋蔵量世界第一位を誇る巨大企業として知られる。その会長職にプーチンの信頼の厚いズボコフが就任したこと、ロシアのエネルギー戦略は一段と強化された。

7月下旬、ガスプロムは「中央アジアの北朝鮮」と称されるトルクメニスタンに対して、天然ガスを今までより高い価格で購入することを約束した。その代わり、今後20年に渡って、トルクメニスタンのガスを全量ロシア経由で輸送することを認めさせた。この決定により、欧米がロシアを経由しないでトルクメニスタンのガスを運び出すことはできなくなった。ガスプロムは、今後カザフスタン、ウズベキスタンなど他の中央アジア諸国とも同様の契約を締結するものとみられる。

現在、ヨーロッパが消費する天然ガスの約3割は、ガスプロムによって供給されている。したがって、ガスプロムが今後中央アジア諸国と同様の契約を締結すれば、ヨーロッパはガスの供給をガスプロムに頼らざるをえなくなり、ロシアとの関係を悪化させるわけにはいけなくなる。そこにロシアの狙いがある。

ロシアは今ガスOPECの創設に力を入れている。ガスOPECとは、ロシア、イラン、リビア、ベネズエラなど12カ国が参加する天然ガス生産国共同体のことである。願わく

みれば、共同体の皮をかぶった反米勢力であることがわかる。天然ガスの埋蔵量は、世界最大のロシアが27%、次いでイラン15%、カタル14%と続き、上位3カ国で世界全体の半分以上(56%)を占める。それだけにロシアとイランの影響力は大きく、ガスOPECに参加を表明している国だけで、世界の天然ガス埋蔵量の7割、生産量4割をおさえているといわれる。ロシアはパイプラインの建設計画を、リビア、トルクメニスタン、アフガニスタン、インド、パキスタンなどと進めており、この機関が本格的に動き始めれば石油OPECに対抗する政治勢力になるであろう。

Information

《中丸薫 最新刊発売のお知らせ》

9月12日、KKベストセラーズより『日本は闇を亡ぼす光の国になる』が発売されました。

各地で頻発する地震、原油高騰、食糧危機。それら全てが繋がっている今、日本人が果たす役割を説いた書となっています。

【目次】◆日本人が知らない「闇の権力」◆迫り来る地球存亡の危機 ◆戦争を望んでいるのは誰か? ◆私の使命、私の歩み ◆アジアを分裂させる闇の策謀 ◆「闇の権力」のあがき ◆光の国、日本が果たす役割 ... など。



定価1,575円(税込)

《中丸薫 最新刊発売のお知らせ》

又、あ・うん社より『こころ - 2012年高次の魂へのアセンション』も発売されました。

「こころ」には「糧」が必要です。「愛を感じるこころ」でなければ、「空虚な渴望」だけを追う「空虚なこころ」になってしまいます。あなたの「こころ」は、「愛」で満たされていますか?

【目次】◆宇宙の「こころ」◆地球の「こころ」◆人間の「こころ」◆「こころ」を開くこと ◆「愛」の「こころ」... など。



定価1,470円(税込)

交友録

アレックス・ヘイリー(1921~1992年)

ロサンゼルス・ワナナー・ブラザーズのビルの中にあるアレックス・ヘイリーの事務所の壁に奇妙な額が飾られていた。黒い上等そうな額縁の中には、イワシの缶詰の缶が二つと、コインが5枚貼り付けてあった。

『マルコムX自伝』を書く6年ほど前でしょうか、モノ書きで暮らしを立てる決心はあったのですが、自分の持ち物といったら、タイプライターと、2つの木挽き台にドアを載せた机、食べ物を入る戸棚にあったのは、サーデインの缶詰2缶、そしてポケットには18セントでした。

こんなに貧しいんだからきつと天国に行けるだろう、と思うたのをよく覚えています。私のルーツです。忘れないように、仕事机から見える場所にいつも掛けるようにしたのです。」

アレックス・ヘイリー氏は、『ルーツ』(九七六年発表で世界的な名声を獲得した。この作品は世界39ヶ国語に翻訳され、600万部も売れたという。)

「人間の最大の欠点だと私が思うのは、お互いについて知らないということ。肌の色や言葉の違い、つまり相違点に目を向けずして、無意味にあげたり差別をしたりする。他の民族も同じ人間であり、相違点よりは共通点のほうが多いのです。『ルーツ』で私が伝えようとしたのは、アフリカの正確な歴史でした。私の本によってアメリカ人が変わったと思いますか、とよく聞かれました。そうは思いません。ただし、他の世界を見ると言う点で影響を与えたとは思っています。」

インタビュー当時(九八二年)、世界中の核兵器の数は、地球を7回壊滅



アレックス・ヘイリー氏と中丸薫

させるほどだと言われていた。ヘイリー氏は核兵器がもたらしうる破壊にも心を痛めていた。

「7回地球を滅ぼすと言ったって、あの6回はどうしようというんでしょ。ね。核爆弾に襲われてから16分の余裕があるんだそう。長いですね。祈るには十分な時間です。」